

科目名	アフレコⅠ							年度	2025
英語科目名	PostloopingⅠ							学期	前期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必／選	選	時間数	105	単位数	3	種別※	実技
担当教員	亀岡真美、阪田佳代	教員の実務経験		有	実務経験の職種		声優		
【科目の目的】 基本発声、滑舌、エチュードを個人、グループワークにて繰り返し習練することにより体得する。また、アニメ、外画、ナレーション、CDドラマ、ラジオなど声優に必要な技術と感情表現を講師が都度用意する台本、映像を使用し、実践しながら学んでいく。									
【科目の概要】 アフレコやプレスコ実習を中心に演技と録音スタジオでの技術を学ぶ。									
【到達目標】 一年次より習練した演技を、具体的かつ明確に、観客・又は求められた現場で可視化することができる。絵に合わせるのではなく、キャラクターの心を表現できるようにする。スタジオでのマナーも身につく。声優という芸能の一分野で社会人として評価され、長期に渡り活動可能な役者になる基盤を作る。さらに演劇を通じ自己を開放、表現することを身につけ、自己肯定感を上げることにより社会組織において、深みのある人間関係を構築できる。									
【授業の注意点】 学生間、学生とのコミュニケーションを重視する。芝居、表現を習得すると同時に、他学生の演技を評価、取り入れる目、耳を養うため、私語や授業態度には厳しく対応する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験できない。									
評価基準＝ループリック									
ループリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標A 【滑舌】	滑舌が明瞭で、意識して聞こうとしていない相手にも、聞き取りづらい言葉が一つも無い	滑舌が良いが、意識して聞こうとしていない相手には、一部聞き取りづらい言葉がある。	滑舌が良く、聞き手が集中していれば、聞き取りづらい言葉が一つもない。	聞き手が集中して聞いていても、時々聞き取れない言葉がある。	聞き手が集中して聞いていても、不明瞭な言葉が多い。				
到達目標B 【個人のマイクワーク】	自分の声が一番良く入る距離を把握し、発声の音圧が不自然に変化する事が無く、ノイズを立てないように最善の注意を払う事ができる。	自分の声が一番良く入る距離を把握し、ノイズを立てないように最善の注意を払う事ができる。	自分の声が一番良く入る距離を把握し、さまざまなノイズに気を付ける事ができる。	さまざまなノイズに気を付ける事ができる。	ノイズに気を付ける事ができない。				
到達目標C 【集団のマイクワーク】	マイク前が混雑した時は率先して、マイクの入る場所を提案できる。	共演者と相談しなくても、自分の入るマイクがわかり、スムーズに収録する事ができる。	共演者と相談し合えば、どのマイクに入るかがわかる。	時々などのマイクに入ったら良いかわからなくなるが、自分が演じない時は、マイクから外れる事ができる。	どのマイクに入ったら良いかわからず、自分が演じない時もマイク前にいる。				
到達目標D 【表現】	演出の指示により表現を自在に変える事ができる。	自分で考え、キャラクターを維持しながら、情景が浮かぶ表現ができる。	アドバイスをもらいながら、キャラクターを維持し、情景が浮かぶ表現ができる。	キャラクターを維持、または情景が浮かぶ表現のどちらかができない。	キャラクターを維持、または情景が浮かぶ表現のどちらもできない。				
到達目標E 【マナー】	スタジオに余裕を持って入室し、全ての方に挨拶をする事ができ、私語はしない。他の方が収録中も、学ぶ姿勢で居ることができる。	スタジオに余裕を持って入室し、スタジオ入室時に全ての方に挨拶をする事ができ、私語はしない。	スタジオ入室時に全ての方に挨拶をする事ができ、私語はしない。	集合時間に到着した為、挨拶ができなかった人がいる。私語は謹んでいる。	遅刻をした。もしくは私語をする。				
【教科書】 毎回台本を配布する。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

